

牛久：学校周辺に見る自然

第19号 牛久二小

2013年9月14日発行

< 夏の校庭で生きもの観察 ③その他 >

牛久二小4年生との、夏の校庭の生きもの観察、最終号の今回は、①～②以外の動植物です。



葉と同じく緑色の幹でも、光合成をして栄養分をつくれるアオギリ(左)。つぼみが大きくふくらんでいた(右)。

まずはアオギリ。ビンゴカードには、「幹が緑色の木」と入れておきましたが、なんとアオギリは緑の葉だけでなく幹でも自分の栄養分をつくれるのです。つぼみがだいぶ大きくなりました。いまはどうなっているでしょうね？



クチナシの花が、きれいに咲いていました。花びらは6つに裂けるのが多いですが、写真左の花のように7つに裂けるものもあります(逆に少なく5つに裂けるものも)。花の時期には、甘い香が漂います。実は乾燥させて着色料に使ったりしますが、私は草木染の染料として使うことがあります。鮮やかな黄色に染まりますよ。分布は静岡県より西ですが、この辺でもあちこちの庭などに植えられていますね。

甘い香りを漂わせる、クチナシの花。

オクラの花も咲いていました。カキの実はだいぶ大きくふくらんできましたが、色はまだまだ緑



が強く、とても食べられそうにありませんでした。

オクラの花(左)と、大きくはなつたもののまだまだ緑のカキの実(右)。



トンボの種類も、季節によって変わります。この日見られたのは、写真の**オオシオカラトンボ**と、コシアキトンボ。美しいですね。オオシオカラトンボはシオカラトンボと似ていますが、どこが違うでしょう？答えは24年度19号で。

青い体が美しい、オオシオカラトンボのオス。シオカラトンボとはどこで見分けられるでしょう？



まだらもようのカミキリムシもを見つけましたね。その名も**ゴマダラカミキリ**。きれいな色ですが、凶暴^{きょうぼう}そうな顔を見てびっくりのお友だちもいました。この辺ではイチジクの害虫として農家の皆さんに嫌^{きら}われていますが、幼虫は他にもミカンやクワの生木も食べるそうです。ビオトープの林にクワの木があるので、そこに住んでいたのかもしれないね。

青みがかった黒い体に、白い点々もようが美しいゴマダラカミキリ。



白と黒のパンダもようと、長い口先、長くてがっしりした前あしが特ちょうのオジロアシナガゾウムシ。

同じく「甲虫(こうちゅう)」の仲間では、こんなユーモラスな姿をした昆虫がいました。**オジロアシナガゾウムシ**です。白と黒のパンダのようなもようですが、体色は黒で、毛の生えた部分が白く見えているのです。ゾウのように長い口先が、ゾウムシのなかまの特ちょうですね。えさは、クズを食べるそうです。クズはいま、北側のがけやビオトープの樹木^{じゅもく}からみついて、花を咲かせています。



こちらはおなじみの**ヨコヅナサシガメ**。グロテスクな姿ですが、サクラの害^{がいちゅう}虫などの体液を吸って、たいじしてくれるありがたい昆虫です。幼虫とはどう違うのでしょうか？

サクラの幹などでよく見られ、害虫などの体液を吸うヨコヅナサシガメ。



↑茨城県内では少ないといわれるブチヒゲカメムシ。



第16号で紹介した**ブチヒゲカメムシ**が、ここでも見られました。県内で珍しくなっていると
いっても、この辺にはけっこういるのかもしれませんがね。環境や天敵などの条件を比べてみると、
少なくなっている原因が分かるかもしれません。

いろいろなガの、幼虫も見つけました。写真の**スジモンヒトリ**のように毛むくじゃらだったり、はでなもようがあると毒があるのかなと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません（もちろん、イラガとかチャドクガなど刺されるとたいへんなものもありますが）。写真の幼虫たちも手に乗せて観察しても平気ですが、よく似た毒のある幼虫もいますから、目の前で「さわってごらん」と言われた時以外は、他の昆虫たちも含め手で直接さわるのはひかえましょう。なお、**エビガラスズメ**はサツマイモやアサガオなどの、**セスジスズメ**はホウセンカやサトイモなどの害虫で、
駆除しないと葉を食いつくされてしまいます。

毛むくじゃらのスジモンヒトリ幼虫(左)と、はでなもようのエビガラスズメ幼虫(左下)、セスジスズメ幼虫(右下)。



以下、スペースの関係で名前のみ紹介。**ダンゴムシ**と、**コアシナガバチ**(死体)、**ツバメ**、**ナメクジ**、**コウガイビル**。コウガイビルは血を吸うヒルの仲間ではなく、切っても切っても再生することで知られるプラナリアに近い仲間。

【理科支援員：宮内】

おなじみのダンゴムシ(左上)と、コアシナガバチの死体(左中)、ツバメ(左下)、ナメクジ(中)、コウガイビル(右)。